

(2) 協議事項 ア

(令和5年3月制定予定)

岩手県立博物館の中期計画について

— 令和5年度～令和9年度 —

I 計画策定に当たっての基本的な考え方

1 目的

当博物館は、「岩手県立博物館使命書」に定める「博物館が社会から託された役割」を実現するため、岩手県立博物館の経営に当たっての「基本方針」と概ね10年間(H30～R9年度)を見通した「中長期的な活動目標」を定めている。

当博物館は、その目標を達成するために、概ね5年間を見通した「第1期中期計画(H20～H24年度)、第2期中期計画(H25～H29年度)」を策定、そして現行の「第3期中期計画(H30～R4年度)」を策定し、博物館事業を運営してきたが、この計画は、令和4年度が終期となっている。

このことから、当館のこれまでの活動の現状や課題、さらには博物館を取り巻く社会情勢や環境の変化を踏まえ、県民から託された使命を引き続き果たしていくために、博物館経営の基本方針に基づき、「中長期的な活動目標」の一部を見直すとともに、今後5年間を計画期間とした博物館活動の指針となる新たな「中期計画(R5～R9年度)」を策定する。

2 岩手県立博物館の運営に関する国・県の基準等

(1) 博物館法

博物館の設置及び運営に関する事項が定められている。平成20年6月の改正により、博物館の運営状況についての評価を行いその結果を公表することとされている。

また、令和4年4月の一部改正により、デジタル・アーカイブ化の推進、他の博物館との連携及び地域の多様な主体との連携・協力による文化観光その他の活動を図り、地域の活力の向上に取り組むことなどが盛り込まれた。

(2) 博物館の設置及び運営上の望ましい基準（文部科学省告示）

博物館法第8条により、文部科学大臣は博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを公表するものとされている。平成23年12月20日の文部科学省の告示により、従来の基準が全面改正されている。

(3) いわて県民計画（岩手県策定）

いわて県民計画（計画期間R元～R10年度）の第1期アクションプランにおいて、I健康・余暇のほか、III教育、VII歴史・文化などの各項目の中で「多様な学びのニーズに応じた拠点の充実」や「学校における文化芸術教育の推進」などがうたわれ、県立文化施設（県民会館、県立博物館、県立美術館）の利用者数や満足度の割合が指標として設定されている。

なお、第2期アクションプラン（R5年度を初年度とする）の策定作業が進められている。

3 岩手県立博物館の運営等に関する計画等

(1) 岩手県立博物館使命書（平成20年3月制定）

博物館の使命として、下記の3つの使命を定めた。

- ① ユニークで多彩な資料の蓄積とその活用に基づく岩手の自然史・文化史の拠点
- ② 幅広い交流による知的活動への寄与と新たな地域文化の創造
- ③ 社会から託された博物館の役割を実現するための基盤整備

(2) 岩手県立博物館経営計画書（平成20年3月制定、平成30年9月一部修正）

「岩手県立博物館使命書」に定める「博物館が社会から託された役割」を実現するため、下記の基本方針と活動目標を定めた。

- ① 岩手県立博物館の経営の基本方針
- ② 岩手県立博物館が社会から託された役割を実現するための中長期的活動目標
(概ね10年間)

(3) 岩手県立博物館の事業実施方針（平成20年3月制定）

事業実施方針を下記のとおり定めた。

- ① 博物館経営の基本方針に従って、概ね5年間を見通した「中期計画」を定める。
- ② 「中期計画」に基づき、毎年度の事業計画を検討・策定する。
- ③ 「岩手県立博物館使命書」及び「岩手県立博物館経営計画書」は、博物館を取り巻く社会情勢等環境の変化を的確に捉えて、適時適切に見直す。

(4) 岩手県立博物館中期計画

「中期計画」については、これまで次のとおり策定してきた。

- | | |
|-----|-------------------|
| 第1期 | 「中期計画（H20～H24年度）」 |
| 第2期 | 「中期計画（H25～H29年度）」 |
| 第3期 | 「中期計画（H30～R4年度）」 |

Ⅱ 現行中期計画（H30～R4年度）の活動目標

1 目指す姿

- (1) 社会から託された博物館の役割を実現するための基盤整備を進め、いわての自然史・文化史の拠点となることを目指します。

【自然史・文化史の拠点の役割】

- (2) 岩手の自然や人間の営みの証拠となる資料の収集・保存並びに被災文化財等の修復・保存に努め、県民共有の知的財産として次世代に確実に継承していきます。

【博物館資料の収集及び被災文化財の修復保存と継承】

- (3) さまざまな機関との連携を強化し、自然環境や文化遺産の保全を支援して県民の知的活動に寄与することにより、岩手の教育・学術・文化の振興・発展、地域づくりに貢献します。【県民の知的活動への寄与】

- (4) 開かれた博物館として、県民との積極的な交流を進め、自主的な学習の場を提供することにより、県民の生涯学習活動と次世代の育成のための学校教育活動を積極的に支援します。

2 博物館の活動目標

- (1) 総利用者数 ⇒ 55,000人以上

項目	実績数値					目標値
	H30	R元	R2	R3	R4	
利用者数(人)	67,559人	67,118人	30,933人	36,951人		55,000人

(令和2年度以降、コロナ禍により、目標値を下回る利用者数)

【内訳】

- ① 入館者数 ⇒ 40,000人以上

項目	実績数値					目標値
	H30	R元	R2	R3	R4	
入館者数(人)	47,883人	47,239人	22,499人	28,292人	※24,711人 (22,693人)	40,000人

(令和2年度以降、コロナ禍により、目標値を下回る入館者数)

※ 令和4年12月末現在、()内は令和3年12月末現在

- ② 教育普及活動参加者 ⇒ 15,000人以上(これまでの目標値を上回る参加者数)

項目	実績数値					目標値
	H30	R元	R2	R3	R4	
参加者数(人)	19,676人	19,879人	8,434人	8,659人		15,000人

(令和2年度以降、コロナ禍により、目標値を下回る参加者数)

(2) ホームページアクセス件数 ⇒ 500,000 件以上

項目	実績数値					目標値
	H30	R元	R2	R3	R4	
アクセス件数	500,000件	656,808件	725,880件	—	—	500,000件

注) 令和2年度以降、システムの変更により、件数把握ができなくなったこと。

(3) 満足度 ⇒ 各項目について95%以上

項目	実績数値						目標値
	H30	R元	R2	R3	R4	平均	
入館者満足度	92.6%	96.3%	95.8%	92.1%		94.2%	95%
職員対応満足度	93.2%	96.8%	98.3%	93.9%		95.6%	95%
企画展入館者満足度	94.8%	92.2%	93.5%	92.3%		93.2%	95%
講座参加者満足度	97.8%	96.8%	98.0%	95.9%		97.1%	95%
現地見学会参加者満足度	96.8%	100.0%	100.0%	100.0%		99.2%	95%
子ども向け事業参加者	99.1%	99.1%	99.3%	99.6%		99.3%	95%

※① 入館者満足度は、入館者に対する総括的な満足度の調査結果であること。

③ 満足度の実績は、利用者アンケート調査を実施した事業の調査結果による。

(一部、目標値を下回るものの概ね目標を達成)

Ⅲ 現行中期計画（H30～R4年度）の実績

1 活動目標に係る年度別評価

「中期計画（H30～R4）の年度別事業計画及び進捗管理表（総括表）」（添付省略）

- 概要：1 入館者数及び教育普及活動参加者数は、令和2年度以降新型コロナウイルス感染症の拡大により目標を下回った。
- 2 ホームページアクセス件数は、システムの変更により令和2年度から件数把握が困難となった。
- 3 満足度の調査結果は、目標を概ね達成した。

2 博物館活動の実績

(1) 博物館入館者等の実績

① 入館者数の実績

（※小中学生は未就学児等含む。以下同じ。）

項目	H29 当時	目標値	H30	R元	R2	R3	R4
入館者数	50,319人	40,000人	47,883人	47,329人	22,499人	28,292人	—
内	小中学生		18,575人	18,097人	9,101人	10,909人	—
	高大学生		1,419人	1,399人	1,014人	1,091人	—
訳 一般	31,074人		27,889人	27,743人	12,384人	16,292人	—

② 博物館まつりの入館者数の実績（R元以降は代替事業の実績）

項目	目標値	H30	R元	R2	R3	R4
入館者数	—	2,079人	台風で中止 (1,904人)	コロナで中止 (159人)	コロナで中止 (163人)	コロナで中止

③ 博物館まつりを除いた入館者数の実績

項目	目標値	H30	R元	R2	R3	R4
入館者数	—	41,055人	45,425人	22,340人	28,129人	—

④ 問合せ受付件数（来館・電話・FAX、メール、手紙他）

項目	目標値	H30	R元	R2	R3	R4
問合せ件数	—	447件	296件	335件	368件	—

(2) 教育普及活動の参加者数等の実績

① 参加者数の実績

項目	H29当時	目標値	H30	R元	R2	R3	R4
② 参加者数	23,620人	15,000人	19,676人	19,879人	8,434人	8,659人	—
（移動展）	698人	—人	476人	573人	0人	653人	—
計	24,318人	—人	20,152人	20,452人	8,434人	9,312人	—

② 参加者の満足度（※R3にアンケート調査を実施した事業）

項目	回答者	アンケート調査結果		満足度
		満足/やや満足	不満/やや不満	
講座	971人	946人	25人	97.4%
現地見学会等	87人	87人	0人	100.0%
子ども向け事業	1,455人	1,449人	6人	99.6%
計	2,513人	2,482人	31人	98.8%

(3) ホームページのアクセス件数等の実績

項目	目標値	H30	R元	R2	R3	R4
アクセス件数	500,000件	656,808件	725,880件	—	—	—

アクセス件数はホームページのトップページへのアクセス件数であること。

(4) 特別展示の開催実績

区分	H30	R元	R2	R3	R4	
特別展示回数	6回	8回	5回	6回	—	
内訳	企画展	1回	1回	0回	1回	—
	テーマ展	2回	3回	4回	3回	—
	特別展（地域展等）	1回	1回	1回	1回	—
	移動展（巡回展）	1回	3回	0回	1回	—

(5) 常設展示の展示替え・トピック展実績

区 分	H30	R 元	R 2	R 3	R4
常設展示替え・トピック展	34 回	24 回	37 回	43 回	—

(6) 年度別登録資料数と実物資料の貸出数の実績

区 分	H30	R 元	R 2	R 3	R4	
年度末登録資料数	310,044 点	323,333 点	333,385 点	347,298 点	—	
増 加 資 料 数	7,933	13,289	10,052	13,913	—	
内 訳	採 集	178	6,485	1,645	394	—
	発 掘	0	0	0	0	—
	寄 贈	7,754	6,797	8,258	13,420	—
	購 入	0	0	10	5	—
	製 作	1	7	38	67	—
	所 管 換 等	0	0	101	27	—
貸出資料数（実物）	144 点	168 点	186 点	186 点	—	

(7) 調査研究への外部助成事業の導入実績

区 分	H30	R 元	R 2	R 3	R4
外部助成事業導入実績	1 件	1 件	2 件	1 件	—

(8) 予算の状況（予算額は各年度の当初予算、職員の人件費除き）

〔単位：千円〕

項 目	H30	R 元	R 2	R 3	R4
総務企画調整費	3,328	3,152	4,082	4,099	4,534
展示活動費	6,198	10,095	16,253	7,416	5,633
資料収集保管活動費	18,342	31,125	37,095	16,925	16,420
調査研究活動費	3,460	3,339	3,936	3,450	3,685
教育普及活動費	507	493	471	460	440
業務管理費	32,085	41,130	43,448	43,730	47,916
指定管理者事業費	136,914	138,015	139,213	138,253	140,362
計	200,834	227,349	244,498	214,333	218,990

(9) 調査研究活動の状況

① 調査研究活動のテーマ（小テーマ）の実績

〔※自然史部門（地質・生物）1テーマを含む〕

項 目	H30	R 元	R 2	R 3	R4	
調査研究テーマ数	31 テーマ	27 テーマ	32 テーマ	37 テーマ	—	
部 門 等	地 質	3 テーマ	※5 テーマ	※5 テーマ	※5 テーマ	—
	生 物	6 テーマ	6 テーマ	6 テーマ	11 テーマ	—
	考 古	5 テーマ	5 テーマ	5 テーマ	5 テーマ	—
	歴 史	4 テーマ	5 テーマ	8 テーマ	7 テーマ	—
	民 俗	5 テーマ	5 テーマ	5 テーマ	5 テーマ	—
	文化財科学	8 テーマ	1 テーマ	3 テーマ	4 テーマ	—

② 調査研究成果の公表の状況

項目	H30	R元	R2	R3	R4
口頭発表等	5件	6件	2件	5件	—
論文・報文	13件	10件	11件	8件	—
新聞その他の著作	34件	25件	28件	29件	—

注) 県博研究報告書を含めていない件数であること。

(10) 博物館事業への協力・支援会員等の状況

① 年度別岩手県立博物館研究協力員の委嘱者数

項目	H30	R元	R2	R3	R4
研究協力員数	14人	15人	14人	12人	—

注) 各年度末時点の委嘱者数であること。

② 年度別岩手県立博物館友の会会員数

項目	H30	R元	R2	R3	R4
友の会会員数	491人	481人	427人	383人	—

IV 中期計画（R5～R9年度）策定に当たって検討すべき事項

1 外部評価－岩手県立博物館協議会での主な意見・要望等（平成29年度～令和3年度）

項目	要望・意見等
広報伝活動・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 英語のツイッターも発信するのがいいのではないかと。(H29) 学校にはたくさんの文書が来るが、直接訪問も含め「オッ」と目をつけられるかどうか。小学校には発信の仕方の一工夫をということ、そういうところが大事だと思う。(H29) 入館者増に向けては、PTAを通じて子供会に呼びかけたらどうか。長期の休みの時など、バスは行政に頼めば使えるのではないかと。(H29) 広報PRは、紙面に載ったり、放送されたりという際の、アウトプットの間口を広くすることが、取り上げられることにつながる。情報を早めにマスコミにリリースすることで、記事や放送にしてもらえるのではないかと。(H30) 小中学生が博物館で体験したことを記事にすることがあってもいいのかなと思った。(H30) ポスターを全く違うコンセプトで作ってみること、多くの方々に来てもらうことを目指して、キャッチーな、斬新な、何か別なことをやろうとしているぞと思わせるものにするのはどうか。 校長会議等、会場を貸して別用務をきっかけにして観覧してもらって、再認識してもらいたいということもあるのではないかと。(H30) 保管されているものを目に見えるようにすること、多くの方がアクセスできるようにしていく必要がある。収蔵目録がWEBページで公表され、また詳しいものであればなおよい。(H30) 博物館内の様子をスマホだけでなく自宅で見られれば、博物館に足を運んでみようかということも増えるのではないかと。(R2) バックヤードツアーは、ZOOMが見られる人でなければ無理かもしれないが、逆にZOOMでもっと近くで見たり、触れないものを見せてもらったり、ということもあると思うので、ぜひやってみる価値はあるのではないかと。(R2)

項目	要望・意見等
広報 宣伝 活動・情 報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>日曜講座は良い講座が多いと思うが、展示に足を運んでもらえるように、講座の内容をユーチューブで見られるようにすることもいいのではないか。</u> ツイッターの工夫とか、私からするともう少し頑張ってほしいと思う。(R3) ・ 階段をずっと上がってきて受付のところで、当日の講座が中止になったのを知ったことが2度あった。下の駐車場のところに貼ってあれば、上まで上がらなくて済んだなと思った。それから、知らないでいる企画が結構あったので、宣伝の仕方というか、もう少し伝わるようにと思ったりした。(R3)
展 示 企 画 テ マ 展	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他県の人やインバウンドの人、また、県内の人への防災教育という部分も含めて、例えば、県立図書館、県立美術館と県立博物館がトライアングルで、関連資料を展示等して震災のことを紹介できればと思う。(H29) ・ 震災津波関係についても、沿岸に行く前に来てもらう、逆に沿岸に行ってから来てもらうようなプランを博物館から押し出したらどうだろうか。勉強になるように、博物館から提示していくことができればと思う。(H29) ・ クモ展の宣伝をするのに、観察会も連動させるのがよいと思う。クモを含んだ観察会を、都市型の盛岡市、自然豊かな岩泉町とかで。その場合、子供向けだけでなく、親子で来てもらうようにして、どちらかが楽しめれば一緒に来ると思う。(H29) ・ ナイトミュージアムについては、大人バージョンで音楽会とかを併せて行うのはどうか。 ・ 若者、大人向けに、高校生のバンドや学生サークルなどが、ここを利用した音楽会とかを仕組むことも可能ではと思う。また、学問、研究だけでなく、芸術についての成果を発表するにもいいのではないか。(H29) ・ <u>冬の写生会について、季節を変えてシニア向けに植物写生会なども実施してはどうだろうか。</u> ・ 小学校の後の中学生、高校生向けのプログラムがないように感じる。例えば、中学生向けには、職場訪問の受入れでバックヤードツアーよりさらに門戸を開くとか、どうだろうか。(H29) ・ <u>たいけん教室に参加して感じたが、本物に触れる、また昔のものを着られる企画もいいのではないか。</u>(H30) ・ <u>文化・歴史の観察会があってもいいのでは</u>と思った。(H30) ・ 今岩手では、「風の電話」や「影裏」などの映画や、「おらおらで一人行ぐも」など岩手基点で発信しているものがある。菊池雄星や大谷など素人受けするものに便乗して、専門的なことではなく、流行りものに乗ることも一つかと思う。(R元) ・ 環状列石展は、縄文の世界遺産と関連してくるのか。北海道、北東北という、広い観点でやっていただければと思う。(R元) ・ 各分野でメインになるものの展示、教えられるものがあればと思うし、家の人に関心を持って子どもも来ると思う。大人が体験するようなイベントなどはどうか。(R元) ・ バックヤードツアーは毎年5月か6月に、年に一度行われているが、5月は高校生が非常に忙しく、土日は大抵忙しい。コロナのこともあるので、今ぐらいの時期や、希望者を募って見せていただいたり、<u>学芸員が何をしているか</u>といったキャリア教育みたいなものを、高校の現場と協力してうまく組み立てられないか。(R2) ・ <u>ウィズコロナで発想を転換して、きめ細かな「コロナの中での博物館」を考えていくこと、インターネット、デジタル技術の活用も一つの方向</u>と考えるので、取り組んでいただくことを希望する。(R2) ・ <u>博物館個々の部屋を使う方法と出前の博物館として、県内で企画展を行い、地元の子供や人々を集めることが可能ではないか。</u> 体験的なことをさせたいができないため、それを避けるためには、ある程度の空間の中で人数制限されながらも、見学をするということがベストだと思われる。(R2)

項目	要望・意見等
展示企画 テーマ展	<ul style="list-style-type: none"> トピック展について資料に載っていないが、毎月一度は見に来ているがなかなか面白い展示で、小さいコーナーながら見てほしいということをアピールするような企画である。それを資料に載せてもよいのではないか。(R2) 今博物館では、コロナに関連する資料を一般の方からも収集していると思うが、その活動についても記載してよいのでは。これから続くものであり続けてほしい。何年か後に「コロナと博物館」といったテーマになると思う。いい取り組みだと思うのでツイッター等でアピールして良いことだと思う。(R2) <u>移動展をもう少し積極的に行えば、多くの方々に関心を持ってもらえるのではないか。</u>同じ県の施設である美術館と比べて、断然少ない。多くの人がいる場所に向いて提供ということはどうか。(R3) 企業が商品開発をする時のヒントになるものが、ネーミングとか、新しく地産地消のアイデアとか、博物館は地域資源の宝庫だと思う。企業に勤めている人とか、社会人とかもターゲットにした企画があれば、いいのではないか。(R3) 博物館を訪れた時に、展示物にQRコードがあって、それを読み取るとその詳しい情報が見られる。この博物館に来ると、<u>県内の文化財や民俗資料の居場所がわかって、つながるという拠点になったら、子ども達がタブレットを使って勉強しやすいのではないか</u>と思う。(R3) テーマ展についてであるが、学問的な興味に応えるとともに、一般の人にアピールするには、世の中で注目されていることに関連づけていくのも必要なのかなと思う。例えば生物であれば、「生物多様性」、「気候変動」とか、水辺であれば「災害」とか。「CO₂」の問題とか。そういうところが、一般の人が興味を持っていることかと思う。(R3) 子どもよりペットの方が多いため、ペットに注目してそれに関連する展示をしたら、来館者を呼ぶのではないか。(R3) 私は車の運転ができないが、<u>地質観察会、自然観察会が現地集合</u>となっていた。私は興味があったが現地には行けないので、<u>1年に1回位バスツアーのようなものを企画して、博物館から県民会館を経由してバスで出かける</u>とかあれば、楽しく参加できるのではないか。(R3)
調査研究	<ul style="list-style-type: none"> 大学や森林総合研究所等の研究施設の研究者との連携もどうか。(H29) 調査、研究等ではなく普及のボランティアというか、そういう形の市民参加型の協力員を考えてもいいのではないか。(H30) <u>科学研究費助成事業に採択されたものについては、成果を展示等に生かして行くことを期待する。</u>断片的でもいいので紹介して、博物館の科研費事業をアピールして行きたい。(R2) 徐々に環境整備が進められていると思うが、学芸員が今後とも研究しやすい、業績を出しやすい、それが館の業績となり、博物館の看板の元に輝くような研究環境の整備を今後とも進めていただきたい。(R2)
不適切 行為事 案関係	<ul style="list-style-type: none"> どこの博物館でも最初からいた職員がいなくなり、また様々な働き方の職員が増えている。日博協が作成した「行動指針」を博物館に関わる人たちがより広く読んで、行動指針にしたがって行動することが大事ではないか。(R元) 社会から博物館が認められ、同様の研究がストップすることのないようにと思う。社会に説明できるように、理解を得られるように進めて行っていただきたい。(R元)
施設面	<ul style="list-style-type: none"> 企画展示に使っている特別展示室の使い勝手が気になる。順路等のシールを床に貼ったりして工夫しているが、充実した企画展示をするために狭かったり、部屋の構造として使いにくかったりしないか。(H30) <u>特別展示室のサイズ、動線と併せて、改装に当たって映像機器を特展室にどう配置するか、</u>が一つ。また、<u>そういった貴重なソフトを保持する、新しいものとしてバックアップする体制</u>ができればと思う。(H30)

項目	要望・意見等
その他	<ul style="list-style-type: none"> 文化財等取扱研修会に参加したことがあるが、「紙の取扱い」の研修を行ってほしい。(R元) 文化財の保存、研究は県博の使命、基本である。自治体史の編纂への協力もお願いしたい。どういった手伝いができるか、地域で関わる人をどう育てるのか、博物館に期待されることも大きいと思う。(R元) 大人の視点であるが、岩手山を望む非常に眺望のいい場所にあるので、野外で何かできないか、活用できるのではないかとと思う。(R3) 博物館のスタッフのスーツの制服が前から気になっていた。伝統だとは思いますが、解説もするし礼を尽くした形とも思うが、寒いとか、靴だと足が痛いとかないのか。例えば科学館とか、もう少しラフなものがあるが、スタッフジャンパーとかでもいいのではないかと。(R3)

2 内部評価

(1) 活動目標に係る職員の自己評価 (職員へのアンケート調査結果等)

「R4 職員アンケート集計」

(2) R3 年度指定管理業務の内部評価表

「R3 年度指定管理業務の内部評価表」

3 岩手県立博物館の将来計画 (特別展示ローテーション)

「特別展示計画」

4 県出資等法人に係る中期経営計画書 (H30～R4) (県立博物館分)

(1) 事業目標

事業	R元年度成果目標	R2年度成果目標	R3年度成果目標	R4年度成果目標
郷土の歴史や文化の理解	入館者数 46,000人	46,500人 (前年度目標+500人)	47,000人 (同 左)	47,500人 (同 左)

(2) 経営改善目標

経営改善目標	R元年度成果目標	R2年度成果目標	R3年度成果目標	R4年度成果目標
文化芸術施設の鑑賞機会の充実及び普及プログラムの推進	入館者数 46,000人	46,500人 (前年度目標+500人)	47,000人 (同 左)	47,500人 (同 左)
	教育普及事業の参加者数 15,000人	15,000人	15,000人	15,000人

5 県立博物館指定管理 (R5～R9年度) 申請団体計画書 (R4.9)

「岩手県立博物館指定管理者指定申請申請団体計画書」

V 中期計画（H30～H34年度）の策定

1 策定の概要

(1) 現行中期計画(H30～R4年度)策定以降における博物館を取り巻く環境の動向

関係法令の改正	<p>1 博物館法の改正（施行：令和5年4月1日）</p> <p>(1) 法律の目的及び博物館の事業の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に文化芸術基本法の本質に基づくことを追加 ・ 博物館資料のデジタル・アーカイブ化を追加 ・ 他の博物館との連携、地域の多様な主体との連携・協力による文化観光など地域の活力の向上への寄与を努力義務化 <p>(2) 博物館登録制度の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地方公共団体、社団法人・財団法人等に限定していた設置者要件を法人類型にかかわらず登録できるように改め、<u>地方独立行政法人立、会社立などの登録も可能に</u> <p>(3) その他の規定の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学芸員補の資格要件を、短期大学士を有する者で、博物館に関する科目の単位を修得した者等に ・ 博物館に相当する施設として指定された施設（指定施設）の<u>他の博物館等との連携等を努力義務化</u> <p>2 文化財保護法改正（施行：平成31年4月1日）</p> <p>地域における文化財の総合的な保存・活用、文化財保護事務を条例により地方公共団体の長が所管することも可とする等</p>
いわて県民計画 (2019～2028)	<p>第1期アクションプラン（R元～R4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「県民が日常的に文化芸術に親しむ機会の充実」、「多様な学びのニーズに応じた拠点の充実」などの記載 ・ 指標は県立文化施設（県民会館、県立博物館、県立美術館）利用者数及び・県立博物館・県立美術館の企画展における観覧者の満足度の割合：91% <p>※ 令和5年度からの第2期アクションプラン策定作業中</p>
岩手の教育振興	<p>岩手県教育振興計画（平成31年3月策定）</p> <p>令和元年度～令和5年度までの5箇年計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校における文化芸術教育の推進 (心豊かに生活する基盤をつくるため、博物館や美術館、図書館等と連携し、学校教育における文化芸術活動に関する講習会や発表の場の充実を支援) ・ 多様な学びのニーズに応じた拠点の充実 (県民一人ひとりが学びたい時に学べる環境を提供するため、博物館等の県立社会教育施設のハード面、ソフト面の充実を計画的に進め、様々な世代の多様な興味関心など、文化芸術・スポーツ活動も含めた幅広い学びのニーズに応じた学習機会を提供する拠点づくりを進めます。)

岩手県教育委員会 「経営計画」	<p>Ⅱ 社会教育・家庭教育の充実</p> <p>【重点事項】 学校と家庭・地域との協働の推進</p> <p>(2) 豊かな体験活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域学校協働活動・教育振興運動や社会教育施設を活用した体験活動の充実に取り組みます。 <p>(5) 多様な学びのニーズに応じた拠点の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 県立博物館において企画展及びテーマ展を開催します。 																				
県内博物館等施設	<p>東日本大震災で被災した博物館等施設で再開した施設</p> <ul style="list-style-type: none"> 陸前高田市博物館 (R4. 11. 5 再開) 																				
入館者数の推移	<p>【入館者数の推移】</p> <table border="1" data-bbox="512 658 1426 741"> <thead> <tr> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>44, 210 人</td> <td>32, 846 人</td> <td>40, 258 人</td> <td>44, 968 人</td> <td>50, 319 人</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="512 781 1426 898"> <thead> <tr> <th>H30</th> <th>R 元</th> <th>R 2</th> <th>R 3</th> <th>R 4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>47, 883 人</td> <td>47, 239 人</td> <td>22, 499 人</td> <td>28, 292 人</td> <td>※24, 711 人 (22, 693 人)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 令和4年12月末現在、()内は令和3年12月末現在</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年11月入館者300万人を達成 	H25	H26	H27	H28	H29	44, 210 人	32, 846 人	40, 258 人	44, 968 人	50, 319 人	H30	R 元	R 2	R 3	R 4	47, 883 人	47, 239 人	22, 499 人	28, 292 人	※24, 711 人 (22, 693 人)
H25	H26	H27	H28	H29																	
44, 210 人	32, 846 人	40, 258 人	44, 968 人	50, 319 人																	
H30	R 元	R 2	R 3	R 4																	
47, 883 人	47, 239 人	22, 499 人	28, 292 人	※24, 711 人 (22, 693 人)																	
学芸業務予算の推移	<p>【学芸業務予算の推移】 (単位：千円)</p> <table border="1" data-bbox="512 1057 1426 1140"> <thead> <tr> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>40, 190</td> <td>38, 193</td> <td>39, 915</td> <td>36, 908</td> <td>34, 475</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="512 1180 1426 1263"> <thead> <tr> <th>H30</th> <th>R 元</th> <th>R 2</th> <th>R 3</th> <th>R 4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>31, 835</td> <td>48, 204</td> <td>61, 837</td> <td>32, 350</td> <td>30, 712</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 当初予算で、職員の人件費及び指定管理者事業費を除く</p> <p>※ 令和2・3年度は40周年記念事業費を含む</p> <p>※ 対H25とR4比較 (▲9, 478千円、23.6%減)</p>	H25	H26	H27	H28	H29	40, 190	38, 193	39, 915	36, 908	34, 475	H30	R 元	R 2	R 3	R 4	31, 835	48, 204	61, 837	32, 350	30, 712
H25	H26	H27	H28	H29																	
40, 190	38, 193	39, 915	36, 908	34, 475																	
H30	R 元	R 2	R 3	R 4																	
31, 835	48, 204	61, 837	32, 350	30, 712																	
施設・設備の現況	<p>開館から41年を経過し、施設・設備の老朽化による不備箇所等については随時改修・修繕を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は、屋上防水工事と外構タイル工事を施工 建物本体、空調設備等の大規模改修等は未実施 																				
その他	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 博物館における感染症拡大防止対策の徹底 新しい生活様式、with コロナに対応した運営等 																				

(2) 次期中期計画 (R5～R9 年度) の概要 (修正予定)

<p>1 目指す姿</p>	<p>「1 目指す姿」については、前記1に記載のとおり、博物館を取り巻く環境の中で、博物館法の一部改正が大きな要因となるが、<u>「博物館資料のデジタル・アーカイブ化」</u>や<u>「他の博物館との連携、地域の多様な主体との連携・協力による文化観光など地域の活力の向上への寄与を努力義務化」</u>については、<u>現行の中期目標の活動方針にも同趣旨の記載があることから4本柱を継続するほか、その内容についても変更しないこと。</u></p>
<p>2 博物館活動の目標</p>	<p>【総利用者数（入館者数と教育普及活動参加者を合わせた人数）】 (案の1) <u>目標値「55,000人」は変更しない。</u>(コロナ禍で、令和2年度以降、目標を下回っており、また、現時点でコロナ収束の見込みの予想が難しく、具体的な数値目標の設定が困難であること。) (案の2) <u>現在の状況を勘案し、段階的に現行の目標値に近づけるよう設定する。</u>(R5：40,000人、R6：45,000人、R7：50,000人、R8：55,000人) 【ホームページアクセス件数】 令和4年12月からシステムが変更となり、トップページのアクセス件数が把握できるようになったことから、<u>「_____件」の目標値を設定すること。</u> 【満足度】 「満足度」については、これまでの満足度の実績値をベースに、<u>高い水準を維持(95%)</u>すること。(達成目標というよりは、最低維持目標の位置付け) 【その他(新たな指標)】 ・ <u>資料のデジタル化及びインターネットでの公開の数値目標を設定する。</u></p>
<p>3 岩手県立博物館の活動方針(重点的に取り組む事項)</p>	<p>ウ <u>特別展示について、「開館40周年を迎えるH32年度」を「令和5年度は全国的に注目される企画展」に置き換えるなど、文言修正すること。</u> キ <u>被災文化財等救援活動の実施等について、活動開始から11年を経過し被災機関への復興支援の内容も充実・進展していることから、記載内容を見直す。</u> ケ <u>岩手県博物館等連絡協議会との連携について、東北発 博物館・文化財等防災力向上プロジェクト事業等との連携強化をうたうとともに、地域連携については三陸ジオパーク推進協議会との連携協力について追加。</u> コ <u>広報宣伝活動の強化について、これまでのポケット学芸員等のコンテンツの充実のほかホームページ上で、館内のバーチャルツアーができるような仕組みの導入や動画の配信などを追加。</u> <u>また、外国人を含む入館者が快適にスマートフォン等を使用できるよう、無料公衆無線LAN(Wi-Fi)の機器の更新等整備について追加記載。</u> シ 社会的責任と貢献 <u>学芸員を目指す学生の博物館実習施設として希望者を受入れ、博物館独自のプログラムを用意し、職員総出による指導を行う「館園実習」の取組を追加。</u> <u>また、県内の博物館等職員及び市町村教育委員会文化財担当者等を対象とした「文化財等取扱講習会」を開催し、資料収集保管の基本的な取扱い、資料を活用した展示及び教育普及活動等の指導など人材育成に継続して取り組む。</u> ス <u>施設の維持管理と計画的な整備について、SDGs(環境への配慮)やインクルーシブ施設を意識しながら取り組むことを追加。</u> ・ <u>その他文言の整理を行うこと。</u></p>